

# 三中だより

令和4年度 6月号



令和4年6月11日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 4)  
校長 小柴 憲一

「育ちがいいのですかね、皆さんお行儀がいいですね」

約1ヶ月近く前にはなっていますが、3年生は5月18日(水)～20(金)に京都・奈良方面に修学旅行に行っていました。修学旅行の話は、ご自宅でお子さんから多くの話を聞いていると思いますので、日記的な内容には触れません。

2日目の朝、奈良から京都に移動するために、宿舎から近鉄奈良駅に移動しているときの事です。全く存じ上げない、地元の私とほぼ同じくらいの年齢の方から、「どちらの高校ですか？」と尋ねられました。私が、「高校ではなくて中学生なんですよ。東京から来ました。」とお答えすると、「あら中学生なんですか。体が大きくて落ち着いているから高校生かと思いました。」と答えられたのに続き、「育ちがいいのですかね、皆さんお行儀がいいですね。通勤する人たちの邪魔にならないように、静かに、しかも端の方をきれいな列を作って歩いていますね。」と褒められました。



ここで、保護者の皆様は「育ちがいいのか」というフレーズで笑われる方もいらっしゃるかもしれません。しかしよく考えてください。

集団行動というのはもちろん学校という場で集団で行動しているときに訓練はします。しかし、それらは決められた状況や条件の下での行動であり、学校の中ではあり得ない一般の人混みの中であったり、2分間で新幹線に約160名が乗り込まなければならぬときであったりなどの場面では、子どもたちのこれまでご家庭でつけられた知恵・良識・マナー・品性が問われてくるものなのです。



実際に、私の経験上の過去の学校では出発の東京駅で駅構内を歩いている間に、前との間隔を空けてしまったために、集団が分断され駅構内で立ち止まることになって一般客からさんざん文句を言われたこともありました。また、便器の数が少ないトイレで、自校の子どもたちが全部を占領して使用してしまったために、小さなお子さんを連れのお父さんに叱られてしまったこともありました。これらのことは、学校でいくら言い聞かせても、また訓練したとしても、解決は困難であり同様なことは起きていたことでしょう。

つまり保護者の皆様が、今までお子さんを育てている中で、自然と教えられていた「皆様の迷惑にならないように」「外では自分たちだけが生活しているわけではないんだよ」「遊んでいる人と働いている人は町には混在しているんだよ」などのことが、今回の子どもたちの騒がしくして周囲を不快な思いにさせなかったり、歩道の半分を占領して、通勤の方々の通行の邪魔をしなかったりした行動につながったのだと思います。

したがって、今回の情勢からの褒め言葉は、そのまま保護者の皆様にお渡ししたいと思います。

子どもたちが  
「誰にでも、努力してもすぐにはできないことがある」  
ということに対して理解すること

先月末に運動会がありました。

運動会といえば「みんなが好きな行事」と思いがちですが、そうとは言い切れません。人には得手不得手があり、運動会に限らず、各教科の学習を始め合唱コンクール、作品展などは、「努力してもすぐには上手にできない」子どもたちがたくさんいるはずです。運動は得意でも絵を描くのは苦手とか、歌を聴くのは好きだけど表現するのは苦手など、誰もが努力してもすぐにはできないことがあると思います。



したがって、先月の運動会についても、スローガンを「全力疾走 ～バトンを繋げ～」としていることから、勝利や優勝を目的としていないことはお分かりかと思いますが。大切なことは、一生懸命頑張ること、そして一人一人の一生懸命をみんなで理解し合うことなのです。



このスローガンの真の意味が分かれば、運動を苦手とする友達が団体競技をして失敗したとしてもそれを責めたりはせず、むしろ応援したり励ましたりします。また、勝敗に関係なく苦手とする友達がいやな思いにならないような作戦を考えた学級もあったはずですが。しかし、「勝つこと」「優勝すること」に夢中になったり、こだわりすぎたりすると、運動を苦手とする友達に厳しい口調で物を言ってしまうたり、その友達の失敗そのものを責めてしまったりするようになってしまいます。

ここで重要なことは、運動が苦手な失敗してしまう子どもたちは、決して努力を怠ったり、いい加減な気持ちでやったりしているわけではないということなのです。むしろ、できるだけ努力して学級のために貢献するために頑張るけれども、いい結果に結びつかないというもどかしさを感じてしまったり、自己否定感にひたたりしてしまっているということなのです。

そのような場合、学校では子どもたちに以下の4点を理解させるように指導しております。

- ① 人にはそれぞれ得意なこと、苦手なことがあること
- ② 苦手分野については、できるようになろうと努力してもすぐにはできるようにならないこと
- ③ 人によっては言われたことに対する受け止め方が異なり、深く傷つく場合もあること
- ④ 学校では様々な学習をし、学習内容ごとに得意・不得意が変わること

今回は運動会でした。しかし、これからも、様々な学習があります。

教科の学習はもちろんのこと、生徒会行事や奉仕活動、文化的行事などもあります。

先ほどの、「育ちがいいのですかね、皆さんお行儀がいいですね」で書かせていただいたように、ご家庭におかれましても、「勝ち・負けや出来映えだけがすべてではなく、そこに行き着く過程で学年や学級が協力しみんなで努力すること、また努力していること自体を認め合うこと、そしてその雰囲気や心地よさを感じるということが学校では大切なんだよ」ということを教えていただくと幸いです。特に、物事に一生懸命で、負けず嫌いなお子さんには、「負けず嫌いなことはいいことだけど、もう一つ大事なことがあるんだよ」として話していただければと思います。

## 気象警報が発令されたときの登校の判断等について

荒川区では、気象警報発令時の対応の基本的な流れを示した「荒川区立小学校・中学校 気象警報が発令されたときの対応」を、以下のように設定しております。第一の目的は、子どもたちの安全を確保するものですので、給食が急遽なくなることによる食品ロスや、ご自宅における昼食の準備などにつきましてはご理解・ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 1 気象警報等が発令されたときの対応

「荒川区立小学校・中学校 気象警報が発令されたときの対応」に基づいて判断します。

(1) 午前6時の時点で、気象庁から発令されている気象警報に基づいて対応を判断します。

(2) 気象庁のホームページで荒川区への気象警報の発令状況を確認してください。

※気象庁のホームページで荒川区への気象警報の発令状況を確認できない場合は、他の情報により、荒川区への気象警報の発令状況を確認してください。

情報によっては、荒川区に気象警報が発令されているときに、23区東部や東京地方という表現で、まとめて気象警報の発令が伝えられるときがあります。荒川区への発令が確認できず、23区東部や東京地方に気象警報が発令されているときは、荒川区に発令されているものとして、判断をしてください。

(3) 登校するときには通学路の状況や気象警報を確認して通学時の安全確保を第一にしてください。

警報等が発令されていない場合においても、天候が不安定な場合や、通学の安全が確保できない場合は、登校を見合わせる判断をしてください。

### 2 授業実施判断の流れ

	午前6時の荒川区の警報等の状況		授業形態	対応	給食
1	特別警報	大雨(土砂災害、浸水害)、 暴風、暴風雪、大雪	臨時休業	情報に注意し、各家庭において身の安全の確保を行う。	なし
2	警報	洪水警報	臨時休業	事前に避難方法を各家庭で決め、状況に応じた行動をとる。	なし
3	警報	暴風警報 暴風雪警報	午前休業	午後の授業実施については、午前11時の気象情報により午後の授業の実施を判断する。	なし

※大雨警報 大雪警報による、臨時休業等の一斉の対応はありません。

	午前11時の荒川区の警報の状況	授業形態
1	暴風警報 暴風雪警報が継続	臨時休業
2	暴風警報 暴風雪警報の解除	5校時より授業

### 3 登校時の注意

周囲の状況を確認して、安全に登校することを最優先にして登校させてください。

### 4 その他

(1) お子さんの安全の確保を第一に考えて行動してください。

(2) 警報が解除されていても、天候の様子や周囲の状況が、登校できる状態でないときには、登校を控えてください。保護者の判断で登校を控えた際には遅刻や欠席とはなりません。次に登校するときには、連絡帳などでご連絡ください。

(3) 「荒川区立小学校・中学校 気象警報が発令されたときの対応」以外の対応が必要な場合は、学校のホームページや配信メール等によりお知らせいたしますので、情報に基づいて行動してください。

(4) 日頃から、各家庭において災害時の対応について話し合い、避難場所や避難経路を確認するなど、安全の確保に努めてください。

## 自然体験活動と宿泊行事の意義について

自然体験活動とは、文字どおり、自分の身体を通して実地の自然で経験する活動のことで、子どもたちがいわば身体全体で自然に対して働きかけ、かかわっていく活動のことです。

しかし、最近では、対象となる自然に実際に関わっていく「直接体験」のほか、インターネットや書籍・テレビ等介して感覚的に学び取る「間接体験」、シミュレーションやバーチャルな世界を通じて模擬的に学ぶ「疑似体験」があります。特に、「間接体験」や「疑似体験」の機会が圧倒的に多くなった今、それらは子どもたちにとって「学んだ気になる」という負の影響を及ぼしていることが懸念されています。

3年生の修学旅行もそうでしたが、2年生の下田移動教室も、まずは事前学習として主に調べ学習として「間接体験」をしました。しかし、その学習を下地として、現地に行き実際に「見る」「聞く」「触れる」「嗅ぐ」「味わう」などの直接体験をするからこそ、子どもたちそれぞれが独自に感動をしたり、不思議に感じたり、疑問を解決したり、心地よさを感じたりするのです。



自然体験活動の意義はそこにあります。

一方、学習指導要領には「生徒の入学から卒業までの間に宿泊を伴う行事を実施すること」と示されています。

いわゆる宿泊行事についても教育的な意義があり、移動教室であれば2泊3日、ともに生活することにより子ども同士の人間的なふれあいを深めることができます。また、生活を円滑に進めるために室長や班長、各係があり、それぞれが自分の役割を果たすことにより、子ども同士が協力することの大切さについて実感を伴って学ぶことができます。さらに、家族旅行ではないため、きまりや約束事を遵守しなければならないという公衆道徳を身に付けることにもつながります。

そして、宿泊行事で学んだ、あるいは身に付けた様々な財産により学校の生活を振り返ったとき、1日1日の生活ではあっても、誰かが何かの役割を果たしていたり、清掃・給食の活動や教科の学習をするときに互いに協力し合っていたり、短い休み時間でも友達と会話をして人間関係を深めていたりしていることに気づき、日々の活動には意味があることに気付くことができるのです。したがって、学校生活もより充実したものになっていくのです。

2年生は運動会が終わってすぐに下田移動教室でした。忙しいスケジュールではありましたが、これからの2学年としての自治力の向上が楽しみです。

### お知らせ

- 荒川区春季大会ソフトテニスの部で以下の成績を収めました。  
男子団体戦 第3位
- 第23回東京都障害者スポーツ大会兼第22回全国障害者スポーツ大会派遣選手選考会で以下の成績を収めました。  
フライングディスク競技 アキュラシー ディスリート5  
12歳以上の部 張 一泓 第3位(A1組 3サイト)  
小畑 柊 第2位(A2組 1サイト)  
13歳以上の部 大貫 歩佳 第1位(A2組 3サイト) <全国大会出場候補選手に選ばれました>
- 汐入小学校の運動会に、防災部の以下の子どもたちがボランティアとして参加しました。  
2年 新井 琉南、清野 まいあ、福岡 優太  
3年 新井 琉夏、加藤 愛子、福田 杏菜、田尻 夏葵
- 天王祭のパトロールボランティアにご協力いただきました保護者の皆様、お忙しい中、誠にありがとうございました。